

## 令和7年度第1回大船渡市防災学習ネットワーク運営協議会 議事要旨

開催日時	令和7年8月19日（火）午後1時30分～午後3時00分
開催場所	大船渡市防災センター 防災研修室
出席者	委員13名 柴山明寛委員、佐藤敬生委員、鹿糠康委員、佐藤高廣委員 佐藤健委員、石橋英委員、鈴木満広委員、新沼晃委員 佐藤大基企画調整課長補佐（松川伸一委員代理）、富澤武弥委員 山岸健悦郎委員、長岩智徳委員、山口浩雅委員 事務局 防災管理室（新沼室長、伊藤次長、佐藤主幹、奥村主事補）
議題（案件）	1 開会 2 会長及び副会長の選任について 3 会長あいさつ 4 協議 （1）令和6年度事業の実績について （2）令和7年度事業計画（案）について 5 その他 6 閉会

### 1 開会

### 2 会長及び副会長の選任について

会長に柴山明寛委員、副会長に佐藤敬生委員を選任した。

### 3 会長あいさつ（柴山会長）

今年は林野火災やカムチャツカ半島沖での地震があり、災害が続いている状況である。今後、特に9月以降から10月にかけて、台風が東北地方を直撃する確率も高くなってくるため、洪水等風水害への対応をしていかなければならない。

防災学習ネットワークを、市民の安全の確保や、様々な方に防災を学んでいただく場として機能させていくために、皆さんの忌憚なきご意見をいただきながら進めていきたい。

### 4 協議

#### （1）令和6年度事業実績について

事務局より、資料1について説明した。

#### ＜意見・質疑応答＞

##### ○ 富澤委員

防災学習館を紹介するDMを送付した結果、先方からの反応や成果はあったのか。

##### → 事務局

現在、先方からの具体的な反応はない。DMを送付するだけでは効果が薄いと分かったため、今後は府内関係課や市観光物産協会と調整し、DMの内容を工夫する

等、成果につながるように改善する。

○ 富澤委員

SNS の投稿実績について、ある程度の反応があったと説明があったが、前年度と比較してということか。

→ 事務局

SNS での情報発信は令和 6 年度から開始したため前年度との比較データはない。今後も定期的に SNS で発信を行い、比較は行っていきたい。

エンゲージメント率については、フォロワーが 1,000～1 万人の場合、約 4 % が一般的な目安とされている。今回、その水準を超える投稿も複数あったため、一定の反応があったと認識している。

○ 富澤委員

実績は取組のみの記述ではなく、成果や反応を踏まえた改善点等を記載してほしい。

○ 柴山会長

県内高校や近隣小中学校への DM 送付について、鹿糠委員のご意見はどうか。

→ 鹿糠委員

校長のもとまで DM が直接届くケースは多くないが、校長会にて防災学習館の話は共有されている。

○ 柴山会長

椿の里・大船渡ガイドの会と行った意見交換の結果はどうだったか。

→ 事務局

今回の意見交換は、今後の連携のきっかけとなるように、双方の現状を把握することに留まっている。今後周遊プランの造成等に活かしていくため、継続的な意見交換を行っていく。

○ 柴山会長

協議会の場で委員と課題を共有するために、実績については結果等を詳細に記載していただきたい。

## （2）令和 7 年度事業計画（案）について

事務局より、資料 2 について説明した。

### ＜意見・質疑応答＞

○ 佐藤企画調整課長補佐

情報発信の手段として、縦型のショート動画は閲覧数が多いため、防災学習館の紹介に活用すると良いと思う。

→ 柴山会長

SNS における縦型動画は効果的である。

現在林野火災の復興が進んでいる中で、県外だと情報を仕入れることがなかなかできない状況である。復旧・復興に向けて取り組んでいきながら、復興状況や現状を発信していくと良い。

○ 富澤委員

事業計画の中で、防災学習館へのエアコン設置のみ、7 月に完了しているという

記述であるが、他の事業はスケジュール通り進行しているか。

→ 事務局

各事業はスケジュール感を意識して進めている。林野火災の影響により 2か月遅れで事業が始まっているが、可能な限りスケジュール通り実施できるよう取り組んでいく。

○ 柴山会長

DM の送付だけでは効果が薄いと思う。直接の訪問説明や陸前高田の伝承館にパンフレットを配架する等、県と連携していくのが良い。また、県内高校だけでなく、県内中学校にも情報提供すると良いと思う。

林野火災の研修受け入れも行うということなので、その点も併せて DM を送付し、送付後はフォローの電話連絡をする等、営業的なアプローチも効果的である。

○ 柴山会長

防災学習館への林野火災コーナーの設置は、いつまでに行うのか。防災学習館には展示が多く、どこを削減しどういう情報を入れるか等計画的に実施しないといけない。発災から一年後と考えると 2 月 26 日までには展示をスタートしたほうが良い。

→ 事務局

林野火災コーナーの設置は、年度末と考えている。防災学習館のレイアウト関係も含めて柴山会長にご協力いただきたい。

○ 柴山会長

防災学習アーカイブスについて、コンテンツは東日本大震災に限らず、林野火災についても登録して良いのではないか。住居に関係しない場所等、住民に迷惑がかからないようにコンテンツは選定する必要がある。

研修等で火災現場を見たいという要望もあると思うが、被災した住居等は見せないように配慮しつつ、被害が分かる場所を市で見学スポットとして指定すると良い。

○ 山岸委員

防災学習館の利用者目標 500 人とあるが、令和 6 年度実績の 273 人に対して、目標と利用実績の乖離について原因はどう捉えているか。

→ 事務局

利用者目標 500 人は、例年設定している数字である。令和 6 年度実績は例年と比べ増加しているが、PR 不足や防災学習館への案内看板が少ない点が要因で目標に達していないと考えている。展示内容は充実しているので、PR 方法等改善する必要がある。

○ 柴山会長

利用者目標 500 人は少ないと思っている。陸前高田の伝承館は年間で 20 数万人規模であり、防災学習館もその 1 割程度は来館してほしいと思っている。

利用者を千人台に増やすことを早期の目標として作っていくことが必要ではないか。立地や周辺の道路が分かりにくい部分も大きいと思うが、国の看板だけではなく、市で案内看板を設置し学習館に誘導できる形を作ると良い。

エアコンの設置は好材料なので、SNS で紹介する等広報に活用すると良い。

○ 佐藤企画調整課長補佐

問い合わせの多くは、①震災から10年以上経過しどう変化したか、②南海トラフの事前復興で学びたい、③林野火災と震災の話を両方聞きたいという内容。個人や団体あてに個別に問い合わせが来ていると思うので、それらをネットワークに結び付けられると良い。

また、一方的に発信するだけでなく、企画段階で遠方とオンラインでやり取りし、実際に大船渡に来訪いただけるように誘致できる可能性はあると思う。

先ほど動画の話をしたが、地域おこし協力隊等に動画作成を協力していただく等の手段はあると思う。

○ 柴山会長

大船渡市では各コンテンツが一か所にまとまらず、回遊する目的で防災学習ネットワークが作られている。市のホームページに紹介はあるが、窓口を設けることが本来やらなくてはいけないことである。

県内や県外の各伝承施設にDMを送付することや、パンフレットを配架してもらう等戦略的に実施する必要がある。

○ 鈴木委員

コーディネート業務が4年経ってもなかなか進んでいない。やはり防災学習ネットワークの認知度はまだ低く、問い合わせ先も不明瞭である。相手の要望やニーズに応じて、学習場所や、学習+観光場所を案内する等、コーディネート業務が一番重要な部分だと考える。令和6年度実績では意見交換をしたとあるが、それを踏まえて今後の方針を伺いたい。

→ 事務局

コーディネート業務は、これまで課題と認識しつつも着手できていなかった部分である。今年度、防災管理室に1名職員を増員した。防災業務全般を行いながら、ネットワーク担当として、情報収集や企画等に取り組んでいく。多様なコンテンツがあるので、ネットワーク内の団体と連携し、課題抽出とヒアリングを重ねてコーディネート業務を含め取り組んでいく。

今年度も継続的に意見交換をしながら、企画商品や周遊商品の造成等に活かしていきたい。

→ 柴山会長

ガイドの会だけでなく他団体ともヒアリングを行い、課題を抽出しながら取り組むことが必要。

○ 石橋委員

林野火災の情報発信のアイディアとして、定点カメラを設置し1週間または1か月ごとに写真を撮影し、復興状況を発信する等どうか。現地を訪問見学したいという問い合わせも多いと思うが、その対応はどう考えているか。

→ 柴山会長

林野火災の現場を見学できるかという点については、微妙な状況かと思う。住民の方々もおり、民地も多いため、市のほうで市有地は見学可能というように整理したほうが良い。

→ 事務局

現地を見たいという問い合わせが多く寄せられているが、被災された方々の心情等を考慮し、市としての案内は控えている。柴山会長のご意見のとおり、地域や

被災者の了承を得たうえで、見学可能な場所を設定するのは良い案だと思う。

定点カメラについては、今まで撮影してきたものがないため、今後なにかできるか考えていかなければならない。

○ 佐藤健委員

林野火災に関する情報発信が少ない中で、ショート動画や林野火災の被害のほか、復興の状況、防災施設やモニュメント等の紹介を定期的に行うことや、問い合わせを受ける窓口を設けることが必要だと思う。

また、おおふなぼーとから防災学習館へ誘導する一連の流れを精査する必要があると感じた。

先ほど動画の話があったが、ハッシュタグキャンペーンのような形で多くの人に投稿してもらうのも1つの手段だと思う。

→ 柴山会長

ハッシュタグキャンペーンは良い案だと思うが、民地が多くそこの取り扱いが難しい点である。市のほうで場所を指定して行うのが良い。

動画については市内の様々な団体に協力を依頼するのも効果的だと思う。

○ 山口委員

防災学習館は、施設名に防災学習とあるため、一般の人から見てハードルが高いのではないかと感じる。ターゲットも小学生から始まり、中学生高校生、市内や市外の方々とかなり広い。情報発信の手段も多様なので、手段によって検証しながら進めていかなければならないと感じた。

どこに主眼を置いて事業を実施するか、ターゲットをある程度絞り、年度ごとに効果を検証しながら広めていくのも一つの方法ではないか。

→ 柴山会長

各SNSで利用者の年齢層が異なり、フェイスブックは40代以上、Xが20代から40代程度、20代以下はインスタグラムと聞いたことがある。年齢層が大体決まっているので、発信媒体によって効果的に情報発信すると興味の引き方が変わると思う。

子供たちは基本的に純粋なのですぐに学んでいただけるが、高齢者や今働いている世代の防災意識が低いように感じる。児童や生徒をメインターゲットとしていると思うが、中高年からお年寄りまでをどうしていくかも重要だと考える。

○ 佐藤高廣委員

防災学習館の館内ガイドが3人おるが、高齢化してきており、ガイド業務もなかなか上手くできなくなってきた。

防災学習館は東日本大震災時に300人以上が避難し実際に生活した場所である。避難所の様子をそのまま残していることが売りであり、津波被害を伝えるための施設だと認識している。林野火災の展示をすることだが、赤崎地区振興協議会としては、津波被害と林野火災は別物として、棲み分けしてほしい。

→ 事務局

防災学習館はメインとして津波の展示があるが、1階には洪水や土砂災害等の展示コーナーがある。林野火災コーナーも同じく1階に設置する方針で考えており、今後赤崎地区振興協議会とも調整しながら進めさせていただきたい。

→ 柴山会長

今回の林野火災で、避難や避難生活において大きな混乱が見られなかったことは、東日本大震災の教訓が活かされたところがある。震災と林野火災で避難の部分は共通しているので、震災当時と比べ変化した点を展示、説明することで、東日本大震災の展示や伝承にも相乗効果が出てくると思う。展示のレイアウト等含めて調整していく。

○ 佐藤企画調整課長補佐

震災当時の話も重要だが、当時と比べ防災は進化しており、当時のまま子供たちに説明すると、古い情報を伝えてしまうことになる。当時の状況を伝えつつ、現在はどう変化しているかという比較があると良い。

○ 柴山会長

震災から14年経過し、展示が古くなってきており、現行の制度や法制度と合わない部分も出できている。過去の災害の教訓から、徐々に変化してきたことを理解してもらうことが重要であるため、展示の改修も必要になってくる。

また、防災センター2階の展示室も展示の改修が必要と考えている。東日本大震災が中心となっているが、今回の林野火災では、消防の活躍により被害が抑えられたという部分を伝えていくべき。

→ 新沼委員

防災センターの展示室は、小学生の社会科見学で利用されることが多い。現在は壁に写真を貼っているような状態でまとまりのない展示になっている。今後、消防署・消防本部でどうレイアウトするか、柴山会長の協力も得ながら改修していくたい。

→ 柴山会長

木の内部が燃えた状況等、現物を保存・展示すると効果的。防災学習館および防災センターでの展示を進めるにあたり、防災管理室と消防で林野火災の写真や動画を集約、整理してほしい。

○ 柴山会長

学識経験者50人規模で林野火災の科学的な解明を行っている。その報告会を防災学習ネットワーク主催という形で市民向けに大船渡で実施できないか。メンバーは大学主体となるが、協議しながら年度内中に開催できれば。メンバーは

→ 事務局

今後の火災対策に活かしていくというところで、市のほうでバックアップしながら開催できればありがたい。

○ 佐藤敬生委員

おおふなぼーとではゲートウェイとして、パンフレットの配架や設置しているデジタルサイネージから防災学習アーカイブスを来訪者に紹介しているが、アーカイブスサイトの操作方法が分からずのお客さんが多いと感じている。アーカイブスへのアクセス数や操作した人数等はホームページやスポットごとに把握しているのか。

→ 事務局

現在のところアクセス数や利用者数は把握していない。

→ 佐藤敬生委員

今後違う形で人目につく場所や方法があれば、無理におおふなぼーとに設置し

なくても良いと感じている。今後違う形で人目に付く方法があれば

ゲートウェイ業務の一環として、旅行会社との商談も実施している。課題等情報共有しながら、観光物産協会でも取り組むことがあれば対応していく。

→ 事務局

防災管理室だけで取り組むのは限界がある。観光物産協会や、市観光交流推進室、キャッセン大船渡等関係団体と連携して宣伝していくために、意見交換等ご協力をお願いしたい。

→ 柴山会長

現在オーバーツーリズムが問題視されているが、大船渡はそういった状況ではなく、ゆっくり学ぶことや観光ができる環境だと思う。子供たちへの学習効果も高いと思うので、誘致活動等観光物産協会にもご協力いただきたい。子供たちへの学習効果が高い、

○ 長岩委員

防災学習館の利用者数のみ資料に記載されているが、他ネットワーク施設の利用状況はどうか。

→ 新沼委員

防災センターの利用状況はネットワークに関係なく、昨年度は約 1,500 人。主に社会科見学や、訓練でのプールの借用、救急講習等で利用されている。

→ 石橋委員

魚市場は一概に震災学習での利用ではないが、全体として 2,000 人程度の利用があった。

→ 佐藤敬生委員

おおふなぼーとは 8 年目にして累計で 50 万人の来場を達成している。

○ 柴山会長

防災学習館も数千人程度来訪いただける可能性やポテンシャルはあると思う。目標としては数千人レベル、さらには何万人と来ていただけるように市として考えていただければ。

## 5 その他

特になし

## 6 閉 会